

## 9カ月～1才くらいは、大人の言葉を理解して、自分の意思をあらわす時期

生後9カ月を過ぎるころになると、それまで漠然と興味ある物に手を伸ばしていた「手さし」という動きから、はっきりと物を示す「指さし」ができるようになってきます。

このころには多くの赤ちゃんがいつも接している人や物にお名前がある事にも気づきだしています。

理解できる言葉の数も少しずつ増えて、「おいで」や「待って」などの指示も分かるようになり、「どっち？」「どこ？」と聞くと、そちらを見たり示したり。言葉でのやりとりが少しずつ出来るようになります。

ですから『○○ちゃん』と呼ぶと手を挙げたり、呼ぶと振り返ったりするのは偶然ではなく自分の事とわかっています。

言葉の理解は、話すことが出来るようになるずっと前から吸収しています。まだ話せないから解らないのではありません。しっかりママのいる事を解っているのです。

手を挙げるという行動はお母さんの真似をしているのですが、真似をする事が出来るように『自分が、こうしたい！』と思うように手を動かす事が出来るようになってきたという事です。この頃には両手を合わせ叩いて『シャンシャンシャン』やハンカチの端と端を持って『いないいないバー』なども楽しめるようになります。お手本を見せてあげてください。真似っこして一緒に遊べますよ！

赤ちゃんが物を「指さし」するようになってきたら、「あれ、取って！」「これは何？」という赤ちゃんの意志の言葉です。ですからそのような行動が見え始めたら、「ボールを取るのね」「これは葉っぱ」と指さした物の名前を教えてあげましょう。すると、赤ちゃんの頭の中で物にはお名前がある事を気づいていき沢山の名前が貯めこまれていきます。そして、インプットされた物の名前がある日「マンマ」や「ママ」といった言葉となって赤ちゃんの口から出てくるのです。初めての言葉が出てから4カ月ぐらいの間に、赤ちゃんはいくつかの単語が話せるようになり、身近な大人とのコミュニケーションから使い方のルールも覚えていきます。

### 「指さし」も会話のひとつ

お散歩で：『とりさん飛んでるね！』『お花きれいね！』

絵本を見て：『バナナ』『リンゴ』『みかん』

食卓で：『ごはん』『たまご』『スプーン』

その時期の赤ちゃんは何でも指さして、「これ」「あれ」と質問や要求を示します。そんな会話のやりとりを沢山楽しんでみてください。

まねっこしたい、まねっこできた、それが理解されたという喜びはコミュニケーションの基礎。そして学びの基礎です。赤ちゃんは真似っこのチャンピオン！！沢山のお手本を見せてあげるとその分沢山の経験が出来ます。

子育て応援しています。